

\*\*\*\*\*

「海の生き物を守る会」メールマガジン No.34

2009. 3.1 (日)



Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

\*\*\*\*\*

**「今日の海の生き物」 ミガキボラ *Kelletia lischkei***

房総半島から九州までの暖海に生息する軟体動物エゾバイ科に属する巻貝。殻の長さはほぼ 10cm を超えるくらい。殻は重厚で、その表面には特別の模様や色を持たない地味な貝である。殻の内側は白色。褐色で長円形の蓋を持ち、厚く硬い。珍しい貝ではないが、あまり



り研究されたことが無く、その生態は不明なままである。「うみほおずき」と呼ばれる卵囊塊を岩の表面などに産み付ける。一つの卵囊の中には、数十個の卵が入っている。卵は孵化した後、卵囊の中で親と同じ形に変態した後、卵囊から出てくる。

(山口県長島、産卵するミガキボラの雌 向井 宏撮影)

\*\*\*\*\*

目次 「今月の海の生き物」 ミガキボラ

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース
2. 当会の現在の活動と予定
3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報
4. 海の生き物とその環境に関する出版物の紹介
5. 事務局便り
6. 編集後記
7. 「うみひろも」と「海の生き物を守る会」について

\*\*\*\*\*

## 1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース

### 【国際】

#### ●公海ポケットを海洋保護区に！

昨年末に韓国で開かれた WCPFC（中西部太平洋マグロ類委員会）メバチマグロの漁獲枠を 2009 年から 3 年間で 30%削減する方針が決まった。日本、中国、韓国などの参加国が 12 月 12 日に合意した。議長は 30%削減案を提案したが、日本などが反対し、結局 3 年掛けて 10%ずつ削減するという合意にとどまった。

また、ミクロネシアとソロモン諸島やフィジー諸島に囲まれた公海ポケット（または「太平洋ドーナツホール」）と呼ばれる海域で、まき網漁を 2010 年までに禁止することが合意された。ようやく公海ポケットの保護に一步前進が計られたといえよう。早く公海ポケットを海洋保護区として設定することが必要である。

#### ●夢の仕事に 3 万 4 千人

グレートバリアリーフにあるハミルトン島の管理人という「夢のような仕事」への応募が 22 日に締め切れ、200カ国以上から 3 万 4 6 8 4 人の申し込みがあったという。幸運を射止められるのは誰だろうか。日本から何人応募しているのか、興味あるところだ。

#### ●コウテイペンギンが絶滅の危機に

アメリカやフランスの研究者の共同研究によると、南極だけに棲む世界最大のコウテイペンギンは、主要な生息地のアデリーランド地区で 1972～81 年の温暖期に海氷が急減し、つがいが 3000 組に半減していたことが判明。そこで 1962～2005 年のペンギンの個体数と気温の関係を分析したところ、地球温暖化が現在のペースで進むと、南極のコウテイペンギンが今世紀末には絶滅する可能性があることが分かった。

コウテイペンギンは冬の間には繁殖し、オスが内陸で卵を温める間、メスは海氷上に移動

しオキアミなどの餌を取る。餌を体内に溜めてオスの元に戻りふ化したヒナに与える。

シミュレーションの結果、海氷面積は10年間に最大3.7%ずつ減少し、個体数は2018年ごろから激減。今世紀末には、存続が危ぶまれる約400組まで減ると結論付けた。研究チームは「産卵期をずらすなどライフサイクルが変わらない限り絶滅を回避することは難しい」としている。

## ●廃ポリタンク漂着問題などで日韓協議

今年1月11日に行われた日韓首脳会談の結果に基づき、きれいで豊かな海を守るための日韓実務者協議が行われた。その結果、日本に流れ着く廃ポリタンク漂着問題を含めて、両者がきれいな海を守るために協力することを確認しあった。

## 【全国】

### ●「生物多様性条約市民ネットワーク」が発足

来年2010年に、名古屋市で生物多様性条約（CBD）第十回締約国会議（COP10）が開かれる。その会議では、条約で定めた目標（2012年ターゲット）の達成度が評価されるが、日本の達成度はまだかなり低く、COP10で各国の非難を浴びる可能性は高い。また、その後の新たな目標達成に向けて日本が主導権を持つことが求められている。とくに、日本は海洋と海洋生物への対応が非常に悪いとされており、海の生き物への保護を訴える良い機会でもある。そのために、日本で「生物多様性条約市民ネットワーク」が発足し、活動を開始した。参加団体には、日本自然保護協会、WWF-J、コンサベーション・インターナショナル、日本野鳥の会など。会員は団体に限っている。

## 【関東】

### ●富津海岸で今年もカイヤドリウミグモ

昨年アサリに寄生するカイヤドリウミグモが大量に見つかった東京湾で、今年も潮干狩り前の調査でカイヤドリウミグモが発見されている。寄生率はあまり高くないが、発見された富津海岸は、去年はカイヤドリウミグモが見つかっていなかった海岸なので、東京湾全体に広がっている恐れもある。今後の広がりには注意したい。

### ●知られざるフジツボの魅力を紹介

新江ノ島水族館が3月1日から31日までの1ヶ月間、「春の旅人～フジツボの知られざる魅力～」と題してフジツボをテーマにした特別展示を行う。沿岸などで普通に見られるフジツボだが、意外と生態は知られていない。貝の一種と思われがちだが、実はエビやカニの仲間である甲殻類だ。岩などに固着するのは大人になってから。幼生期は浮遊生活をする。展示は国内外の十種ほど。青森県から沖縄県に生息するアカフジツボや、

チリやペルー南部に分布、殻の高さが 20cm にもなる世界最大の食用フジツボの「ピコロコ」などが展示される。

## 【北陸】

### ●原発の再開に反対の 119 万人署名提出

中越沖地震で被災した東京電力柏崎刈羽原発 7 号機の運転再開を狙う東京電力に対し、新潟県平和運動センターなどをつくる「柏崎刈羽原発設置反対県民共闘会議」は、原子炉設置許可取り消しと、運転再開の断念を求める計約 119 万 4000 人分の署名を国と東電に提出した。署名は昨年からの全国各地の集会や街頭活動などで集めたもので、社民党国会議員とともに、東京都内で経済産業省原子力安全・保安院と原子力安全委員会の担当者と面会して、「意見の異なる専門家同士の公開討論を行うべきだ」と申し入れた。

また、中越沖地震で被災した東京電力柏崎刈羽原発 7 号機の運転再開問題で、「刈羽村生命を守る女性の会」と「原発反対刈羽村を守る会」は 27 日、同村の品田宏夫村長に対し「安全性が十分確認されたとは言えない」などとして、起動試験を認めないよう求める申し入れを行った。

### ●七尾西湾は 60 年前から環境悪化？

日本の沿岸の環境が悪化し始めたのは 1960 年代の高度成長期頃というのが一般的な常識であるが、金沢大学大学院生の谷口麻由佳さんが七尾西湾で行った有孔虫の研究によると、太平洋戦争前後の 1040 年代から富栄養化・貧酸素の環境で優占する種が増えていたことが分かった。堆積物の中の有孔虫の死骸を 400 年前から年代ごとに分けて調べたもので、富栄養化した海域で特徴的に増える一種が 1940 年代後半からそれまでの 2-4 倍に増えていた。この有孔虫は、大阪湾で 1920 年代にそれまでの約 30 倍に増えるなど、富栄養化に適応した種類であることが分かっている。七尾湾では 1910 年に肥料工場が完成し、1925 年からカキの養殖が始まっている。

## 【近畿】

### ●アナゴが減ってマグロが来る…大阪湾温暖化？

大阪湾周辺の漁業にも、地球温暖化による水温の上昇のせいとみられる異変が起きている。湾内でアナゴの水揚げが減少する一方、黒潮の魚、クロマグロが毎年のように来遊している。そのほかの熱帯性の魚も多く見られるようになった。

大阪府環境農林水産総合研究所は、20 か所の水温を定期観測しているが、1978 年からの 10 年間と、98 年からの 10 年間の表層水温の平均値は 11 月で 1.18℃上がっていた。水温の上昇とともに獲れなくなったのがアナゴ。兵庫県の年間漁獲量は、88 年に 2,411 トンだったが、06 年には 614 トンにまで減少した。大阪府でもその傾向は同じで、4 分の 1 に減少している。



また、冬に産卵するマコガレイやイシガレイなども減っている。漁獲量は05年に582トンと、10年前の半分にまで減少した。

逆に、クロマグロが96年に初めて取れて以来、毎年のように漁獲がある。また、熱帯のモンツキイシガニやアミメノコギリガザミといったワタリガニの仲間も多く取れている。暖かい海に生息するシャコやウニも相次いで見つかっている。

## ●白良浜の人工突堤で排水路修理工事

和歌山県は、白浜町白良浜の人工突堤内の排水路にすき間ができていて可能性があるとして修繕工事を始めた。排水路から流れ出したと見られる汚れた砂が白良浜の白砂を汚しているのが見つかったため。排水路は家庭や宿泊施設からの排水が混じった水を、突堤の先端から沖に流している。工事では突堤の北側を掘り起こしてふさぐ予定。事業費は約1,400万円。住民からは「そんな工事をするよりも、排水の浄化率を早く高める方が根本的な問題」という声も出ている。

人工突堤は砂の流失を防ぐのが目的で作られたもので、県の白浜海岸環境整備事業（白良浜養浜事業という名で外国の白砂を観光用に海岸に入れた）の一環で作られた。沖側に突き出た部分（延長約100m）の内部に排水路が通され、周囲を石とセメントで固めている。長年にわたる波の影響などですき間ができた可能性があるともみている。

## ●オオウナギの幼魚を確認 高速道路工事で調査

和歌山県白浜町の富田川を横断する近畿自動車道紀勢線の工事で、富田川に生息する動植物への影響を調べていた国交省の紀南河川国道事務所が、富田川でオオウナギの幼魚の生息を確認したと発表した。

富田川は河口から18km上流までが「オオウナギ生息地」として国の天然記念物に指定されているが、2002年に成魚が確認されて以来、近年はオオウナギの生息は確認されていなかった。高速道路がこの区間を横断するため、オオウナギ保全のために調査を実施していたもの。オオウナギは和歌山県の絶滅危惧種にも指定されている。

採集されたオオウナギの幼魚は、全長9cmで、海から河口を遡上し始めたばかりと思われる。工事がオオウナギの生息に影響を与えないような工夫が求められている。

## 【中四国】

### ●上関原発、中電が詳細調査終了を発表

山口県上関町長島に建設を予定している上関原発について、国への原子炉設置許可を申請するために必要な詳細調査が終了したと中国電力が発表した。05年度から始めた詳細調査は、反対派住民による炉心予定地の入会権訴訟や、ボーリング時に濁水を排出したことなどから何度も中断を繰り返し、予定を大幅に遅れて終了したもの。今年度内に原子炉設置申請をする予定にしており、今年の春にも建設予定地の造成工事に取りかかることにし

ている。

## ●長島田ノ浦の埋め立て反対訴訟の原告を募集

中国電力が行う予定の上関原発の建設のための海面埋め立てを山口県が許可したことに対して、長島の自然を守る会（代表：高島美登里）では、許可取り消し訴訟「自然の権利」訴訟を行っており、一人でも多く原告になってもらえるように、原告を募集している。原告団に加わるためには、一人2万円の訴訟費用を負担することが必要。原告団への参加はとりあえず4月末日を締め切りとしている。連絡先その他は：

連絡先：長島の自然を守る会 747-0063 山口県防府市下右田 387-14 高島美登里

(TEL&FAX: 0835-23-1891; e-mail: [midori.t@crocus.ocn.ne.jp](mailto:midori.t@crocus.ocn.ne.jp))

原告費用振込先：郵便振替口座 01330-0-52815 加入者名：上関自然の権利訴訟原告団

## 【九州】

### ●タイラギなど貝類の養殖研究へ 佐賀県

諫早湾の埋め立てに始まった有明海の海況異変で、タイラギ漁がほとんどできなくなるなど有明海の漁獲量が激減し、水産業が衰退している。そこで佐賀県では、タイラギやアゲマキなどの二枚貝類の養殖研究事業に取り組むことになった。

来年度予算に1億6000万円を計上して、有明水産振興センターが3年掛けて養殖技術の確立を目指して研究を行う予定。タイラギの養殖は、ネットに入れて海中につるす方式が開発されているが、採算面などで問題があるとされており、タイラギの稚貝を干潟に移して自然環境で養殖することを目指している。

アゲマキの種苗生産技術はすでに確立しており、漁場づくりを研究する。海岸に砂を撒いて養殖場を造成するという。このような養殖場を海岸に作ることによる他の生物への影響については、考慮されていないようだ。

今回の研究は、諫早干拓事業についての昨年の佐賀地裁判決が国の責任を認め、長期開門調査をすべきだとしたことを受けて、当時の若林農水相が創設した国の事業である。水産業への研究費を出すことで、長期開門調査をどうしてもやりたくない農水省の目くらしでしかない。

## 【沖縄】

### ●天願川などで大量の魚が死亡

沖縄県うるま市の天願川河口とヌーリ川で大量の魚が死んで浮いているのが発見された。天願川で死んでいたのは、ボラやウナギ、コイなどで、主に河口付近。ヌーリ川で死んでいたのも河口付近だが、満ち潮によって運ばれた海の魚が中心と見られる。

天願川では2006年にも二度ほど大量に魚の死骸が浮くということがあったが、原因は不明のままと言うことだ。農薬や水質汚染によると思われるが、今回の出来事も原因は分か

っていない。

## 2. 当会の現在の活動と予定

### ●「海洋シンポジウム」を開催します

「海の生き物を守る会」では、3月28日（土）に、東京弘済会館でシンポジウム「海洋環境の保全」を同封のポスターの通り、海洋環境政策ネットワークとの共催で開催します。海洋シンポ「海洋環境の保全ー海洋生物とその環境保護・保全の政策化をめざしてー」

とき：3月28日（土）13:30~16:30

ところ：弘済会館・きく

参加費：1000円（海の生き物を守る会会員は無料）

主催：「海の生き物を守る会」「海洋環境政策ネットワーク」

後援：日立環境財団・セブンーイレブンみどりの基金

連絡・申込先：海洋ネット事務局

TEL:03-5226-8843 FAX:03-5226-8845 e-mail: [kobayashi@c-poli.org](mailto:kobayashi@c-poli.org)

■内容や開催趣旨は、同封のポスターをご覧ください。また、同封のポスターの pdf ファイルを印刷して、多くの人に見てもらえるよう、宣伝にご協力下さい。

### ●今年の総会を開催

前述の海洋シンポジウム終了後、今年度「海の生き物を守る会」総会を開きます。弘済会館きくの中に、16:30 ころ、会員および入会希望の方はお集まり下さい。会場は近くの喫茶店を予定しています。

## 3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

### 【北海道】

#### ●京都大学フィールド科学教育研究センター地域連携講座

「厚岸湖・厚岸湾は なぜ生産性が高いのか？」

とき：3月7日（土）13:30~16:30

場所：北海道厚岸町情報館「本の森」2F

主催：京都大学フィールド科学教育研究センター・厚岸町

参加費：無料 参加申込：不要

プログラム：

1. あいさつ 厚岸町長 若狭 靖
2. 「鉄がつなぐアムール川とオホーツク海ー「巨大」魚付き林という考え方ー」 大西健夫（総合地球環境研究所）
3. 「厚岸湖の生産を支えるものとその保全」 向井 宏（京都大学フィールド科学教育研究センター）
4. 「アマモ場はなぜ重要なのか？」 仲岡雅裕（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所）
5. 「地域資源としての厚岸湖ー農業と漁業の交わる場所」 川辺みどり（東京海洋大学）
6. あいさつ 京都大学フィールド科学教育研究センター北海道研究林長 安藤 信

## 【関東】

### ●長谷川博 鳥島調査 100 回記念特別企画 海のトークセッション

#### 「アホウドリ：未来への飛び立ち」 長谷川博

スピーカー：長谷川博（東邦大学教授：OWS 会長）

日時：2009 年 3 月 20 日（金・祝）

場所：d-labo（六本木ミッドタウンタワー7階）

主催：OWS、スルガ銀行

参加費：無料

申込先：下記、スルガ銀行 d-labo ホームページから事前に申し込む

<http://www.d-labo-midtown.com/d-log.php>

### ●第 59 回海洋フォーラム

「フランス漁業資源管理と生態系アプローチについて（英仏海峡での学際的取組み）」

1. 日 時：平成 21 年 3 月 10 日（火）16：00～18：00（受け付け開始 15：30）
2. 場 所：東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 2 階大会議室 A
3. テーマ：「フランス漁業資源管理と生態系アプローチについて（英仏海峡での学際的取組み）」
4. 講 師：André Carpentier（オンドレ カーペンティエー）（フランス海洋開発研究所（IFREMER））（逐次通訳）

生態系アプローチが漁業資源管理の手法として注目を浴びておりますが、他国の政策事情や研究方法の内容を知る機会に限られています。そこで今回は、フランスの漁業管理政策の最新の取り組みである GIS を使った海洋資源の統合的生態系調査についてご講演いただきます。



### ●谷津干潟自然観察会（3月）

- 期 日 2009年3月15日（第3日曜日） 雨天中止
- 集 合 津田沼高校前バス停 午前10時
- 交 通 JR津田沼駅南口から新習志野駅行または幕張本郷行き京成バスで津田沼高校前下車。
- 案 内 そろそろの春の気配です。ハマシギの数が多くなり、カモたちはカップルになり北へ帰ってゆきます。冬鳥のおさらいにきませんか。頭の黒くなったズグロカモメはもう帰ってしまっているでしょうか。3月といっても北風が吹くと寒いので、防寒はしっかりと。観察会終了後は、茜浜ミニ探鳥会へどうぞ！
- 持ち物 観察用具、昼食、参加費200円。
- 担 当 飯島、斉藤（047-432-9416）
- 主 催 千葉県野鳥の会

### ●茜浜（習志野海浜霊園）ミニ探鳥会（3月）

- 日 時 2009年3月15日（日） 雨天中止
- 集 合 習志野海浜霊園管理事務所前、14時半。
- 交 通 JR京葉線線新習志野駅下車、徒歩約15分。
- 案 内 習志野海浜霊園地先の海辺にいるカモやカイツブリの仲間たちを観察します。カイツブリたちの美しい夏羽を堪能しましょう。谷津干潟自然観察会の後参加される方は、津田沼高校から新習志野駅行きのバスをご利用ください。解散は16時頃の予定です。
- 持ち物 観察道具、その他（防寒は怠りなく）。参加費200円
- 担 当 斎藤康裕 TEL：047-432-9416
- 主 催 千葉県野鳥の会

### 【近畿】

#### ●京都大学・神戸大学合同市民公開講座

#### 「海と人のかかわり ～人・社会・自然を考える～ 海洋・河川における化学物質の管理」

とき：3月14日（土）13:30～16:30

場所：メルパルク京都（JR京都駅前）

主催：京都大学フィールド科学教育研究センター・神戸大学海事科学研究科

参加費：無料

参加申込：京都大学フィールド科学教育研究センター企画情報係 [joho@kais.kyoto-u.ac.jp](mailto:joho@kais.kyoto-u.ac.jp)

プログラム：

1. 開会の挨拶 向井 宏（京都大学フィールド科学教育研究センター特任教授）
2. 「日常生活に由来する新しい汚染」 田中宏明（京都大学大学院工学研究科）
3. 「海で意図的に使用される化学物質は環境に安全か？」 岡村秀雄（神戸大学大学院海事科学研究科）
4. パネルディスカッション パネラー：田中宏明・岡村秀雄・吉岡崇仁・石田廣史・佐藤真行（司会）
5. 閉会の挨拶 石田廣史（神戸大学大学院海事科学研究科長）

### 【中四国】

#### ● スギモク観察会 & 海岸生物観察会 & 野鳥観察会

上関原発建設予定地の田ノ浦で、美しいスギモクの「花」の観察会を行います。

3月7日（土）10:30 蒲井港駐車場集合

11:00 新井章吾「スギモクって、なあに？」（人びとの集いの家）

13:00～ 田ノ浦でスギモク観察

16:00 解散

3月8日（日）10:30 蒲井港駐車場集合

田ノ浦で船上からの観察&水中ビデオ上映

16:00 解散

参加費用：大人 1500 円 子ども 500 円（船チャーター料込み）宿泊希望の場合は、宿泊費 1,100 円＋食費（実費）

申込先：[midori.t@crocus.ocn.ne.jp](mailto:midori.t@crocus.ocn.ne.jp) 高島美登里 または [yo.morita@extra.ocn.ne.jp](mailto:yo.morita@extra.ocn.ne.jp) 森田修

## 4. 海の生き物とその環境に関する出版物の紹介

●久保田信「地球の住民たち 動物編ーミラクル・アニマル・アース」 pp.120  
DVD 付き 不老不死研究会 ¥3,500 販売は「紀伊民報」社。

京都大学瀬戸臨海実験所の久保田准教授が、動物の 41 門について解説したものを自費出版したもの。DVD でいろんな動物の写真や動画も見られる。

### 5. 事務局便り：

●講演での講師派遣を希望される方は、事務局へお問い合わせください。沿岸の生物やその環境についての問題、沿岸生態系の構造、保全、再生、地球環境問題、環境教育などに関する講演を行うことができます。

- 本会へのカンパをお寄せください。口座は埼玉りそな銀行指扇支店 3896180。
- 企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。
- このメールマガジンは、毎月 1 日と 16 日の 2 回発行の予定ですが、都合によって遅延や中止もあります。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせください。また、パソコンを使えない方には印刷体でもお届けします。その場合は、郵送料をご負担していただくことがあります。
- このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。海の生き物や守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひろも」のバックナンバーは、ホームページからダウンロードできます。
- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごいっしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。

## 6. 編集後記

春らしくなってきました。寒さの冬もようやく終わりを告げていますが、風邪などひかずに 3 月を迎えられたでしょうか。うみひろも 34 号をお届けします。3 月 28 日の「海洋シンポジウム」を成功させて、来年の生物多様性条約 COP10 に向けて、日本の海洋保護区のネットワークを実効あるものにしていきましょう。ご協力をお願いします。(宏)

## 7. 「うみひろも」と「海の生き物を守る会」について

この「うみひろも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。配信が迷惑と思われる方は事務局までご連絡ください。「海の生き物を守る会」の趣旨および組織の概要は会のホームページ <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html> をごらんください。

**海の生き物を守るためになにかしたい！というあなたに！**

## 会員募集中です！

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 円/年、団体 20,000 円/年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行うことができ、そのための助成金申請をすることができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して広く通知されます。入会希望の方は、事務局 [hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp](mailto:hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp) (向井) まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。

## 事務局員も募集中！

事務局を手伝っていただける人を探しています。パソコンでメールが使える環境にあれば近くにいらなくてもお手伝いいただけます。ただし、無収入ですので海の生き物の保全・保護に関心とボランティア精神のある方。

メールマガジン『うみひるも』第34号 2009年3月1日発行

発行&編集人「海の生き物を守る会」代表 向井 宏

〒606-8244 京都市左京区北白川東平井町 23-1 グリーンヒル北白川 23

TEL&FAX:075-703-7205; 090-8563-1501

メールアドレス：[hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp](mailto:hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp)

ホームページ URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

銀行口座：埼玉りそな銀行指扇支店 3 8 9 6 1 8 0

